

天文学と猫 第27回 プラネタリウム



www.tenpla.net



今月のお題

ふつうじゃないプラネタリウム

シカゴのアドラープラネタリウムと、
京都市青少年科学センターの特別投影を見学してきました。

高梨直紘 (東大D2/天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D2/国立天文台ALMA推進室所属)

天ブラのような活動をしていると、どこに出かけても天文のニオイがするものが気になります。プラネタリウムなんかを見つけると、ふらふら入ってしまうのですが、今回はたまたま“ふつう”ではないプラネタリウム投影を立て続けに見る機会に恵まれましたので、どんなプラネタリウムだったのか報告しましょう。

アドラープラネタリウムの見学

ひとつめはアドラープラネタリウム。アドラープラネタリウムは、アメリカで最も伝統あるプラネタリウムのひとつで、シカゴにあります。私が見たのは“Space in Your Face”という投影で、入ったお客さんの半分くらいはお子さんでした。まず驚かされたのは投影前の待ち時間。プラネタリアンの方が会場からどんどん質問を出させ、その場で流れるような回答を行っていました。その内容も、太陽系から宇宙の果てまで多岐にわたり、それをよどみなく答えていきます、格好良い！

投影が始まってからも尋常じゃありません。日本と同じく投影は日没から始まるのですが、その時の話が「ミー散乱」と「レイリー散乱」。雲が白く見えるのはミー散乱、夕陽が赤かったり空が青いのはレイリー散乱の影響なのですが、日本では大学で学ぶ内容です。そんな用語が平気でぼんぼん出てくるプラネタリウム…うむ、こんな世界があったのか。

京都市青少年科学センターの特別投影

もうひとつは、京都市にある青少年科学センターでの特別番組の投影です。なんとテーマは、「時間生物学」！毎晩規則正しく星が昇り、沈んでいくのは地球の自転によるものですが、このリズムは私たちの身体の中にも刻み込まれているというお話。プラネタリウムといえば星空と思いこみがちですが、もっと自由な発想でプラネタリウムを使おうという試みです。プラネタリウムの星空から始めて、様々な世界につながっていく投影はもっともってあっても良いでしょう。今後もこのような取り組みが広がっていくと楽しいですね！



ミシガン湖畔にたたずむアドラープラネタリウム。プラネタリウムだけではなく、様々な天文展示があり、多くの人が訪れるシカゴ市の観光名所となっています。



シカゴのフェルミ国立加速器研究所で行われた会議に参加してきました。ATPIは海外の研究者にも好評です。(高梨/左)ミタカ星空プロジェクトの為に天ブラで購入した望遠鏡を抱く平松(右)